

A word with all my heart to the philosopher, Professor Tanaka

1 Encounter with Professor Tanaka and my work in the school education center

私をはじめで学校教育センターに所属が決まったときに、学校教育センター長として出会いました。きさくな方だという印象を受け、ほっとしたのを憶えています。この頃、学校教育館が設立され、学校教育センターとしてこれからどのように運営していくか、課題を抱えていた時期でした。私の役割は、センター長の少しでも援助をしていきたいと考えていました。その夏、1泊2日の研修を企画し、今後の運営について協議をする機会を持ちました。そのときの協議の柱が、教職課程の今後ということでした。大学でどのような教員を養成するかという本質的な課題にせまり、学科を超えた教育課程を編成していく必要性や、全学教職を実質化していくべきであるとの議論がなされました。その後このときの協議をきっかけに、教職課程を設置している全学の調整を精力的に進められ、実現にもちこまれたことは、先生のリーダーシップにほかならないと思います。

2 Completion of master's thesis

この年、修士を取得するために、武庫川女子大学大学院の入学試験を受けることにしました。すでに考えた論文を提出し、当日は田中先生を含めて面接を受けました。あとで論文について、評価をいただいたときに、これまでの経験での論文では通用しないということを思い知らされました。内容が総花的であるとのことでした。修士課程に進むと言うことは、それなりの考えがあつて、それをとことん突き詰めていくことでないと意味がないということです。多分これまでの私は、内容をまとめることには得手であったかもしれませんが、一つのことを深く考えることはなかったように思います。大学院では、教育学を専攻しました。人間形成論演習や教育学研究特論などを履修し、自分がこれまで学んできた道とはおよそ異なる内容に出会うたびに、新しい発見がありました。田中先生の授業では、だれもが緊張感をもって臨んでいたと思います。それは、発表の内容に対する突っ込みがするどく、答えられないことも多くありましたから。その中で、一つ記憶に残っているのは、「Learning to Learn」という言葉を何度も耳にしたことです。まさに、生涯教育のスタンスであるということで、これと対比して言われたのが、バケツ理論です。このことについては、記憶がかなりあやしくなっていますが、知識を増加、蓄積させていくことをバケツに水を注ぐことにたとえられ、それはいずれは飽和状態になってしまいます。しかし、生涯学習社会の中での学びは、バケツのような学びではなく、行動しながら学んでいくものであるといったことであつたように記憶しています。授業の合間には、田中先生がかって師事された先生との思い出話や、他の大学での先生の活躍を彷彿させる話も多く聞くことができ、楽しい時間を過ごしました。

『人間は教育によってはじめて人間になることができる』実に味わい深い有名な一文です。昔から「氏より育ち」とか「子どもは親の鏡」あるいは「親の背中を見て育つ」といわれるように、子どもの成育にとって、環境が大きく影響することの表れであり、とりわけ、親の影響力は大きいと言わざるをえません。私自身も親の教育力の下で成長したことを実感しています。そして、その後の人生は、まさに社会の中での教育によって成長してきたと考えています。今あらためて、論文作成という初体験をしていく中で、研究した事象を連ねていくものであるとしても、そこに自分の人生のあり方を重ねることになるのではないかと思います。その観点から論述すれば、田中先生からの教授は、多くのことを考えさせられるきっかけになったと思います。論文のタイトル「教員の主体的・自発的学びにつながる『ラーニングプログラム』の構築に向けて」は先生から助言をいた

だき、決定させていただきました。自分の生き方につながることでであると痛感しています。内容としては、いわゆるエビデンスなるものをもっと示す必要があったと考えています。作成の途中は、さまざま紆余曲折がありました。なんとか最後の形に完成させることができましたのは、ひとえに先生のおかげです。論文の加筆、修正を何度も行っていただき、本当にありがとうございました。

3 Education in the Corona era

2017年から、附属中高の校長に就任して、先生と出会おうことも本当になくなり寂しい限りです。かろうじて部長連絡会にお顔を拝見することぐらいです。こちらの業務が多忙ということもあり、研究室へも足を運ぶこともなく、ここまで過ぎてしまいました。今年度に入り、部長連絡会議も指示事項だけをみなさんにお伝えすることが9月まで続きました。附属中高は、6月から授業は平常通りとなりましたが、今再び感染者が増加している状況では、気の休まることはありません。したがってこれからの学校教育の教育改革の中心はICT教育をいかに根付かせていくかにかかっていると思います。また同様に大学教育も、オンライン授業が続けられていく現状にほんの少し前まで考えられなかった教育のあり方が現実になっています。その中で、5年前、先生とともに教職課程のあり方や現職教育について協議したことが、形をかえて生かされていくものと信じています。

あらためて先生のこれまでの長い人生の中においては、武庫川女子大学での教員生活は短い期間ではあったことと思いますが、仲良くといえば語弊があるかもしれませんが、親しみを持って接していただいたことに深く感謝しております。先生の思い出の一つに加えていただければさらに幸せです。

最後に学校教育センターに在籍したのは、わずか2年間でしたが、思い起こせば濃密な2年間であり、人生を豊かにした2年間でもありました。まだまだ書き尽くせないことも多くあるように思いますが、先生のますますのご活躍と、ご健勝を祈念申し上げ、筆をおくことにします。

Sincerely Yoko Fujimori
(武庫川女子大学附属中学校・高等学校長)